

右側通行と左側通行

わが国では、車は左側通行で、欧米の右側通行とは反対である。日本のように伝統的に左側通行の国や、イギリス及び英連邦諸国、旧植民地のような例を除けば、全般的に右側通行の国の方が多い。戦後長らくアメリカの占領下にあった沖縄では、右側通行だったが、1972年の本土復帰とともに日本式の左側通行に改められた。

ヨーロッパ大陸では、1967年にスウェーデンが左から右に変更し、大陸はすべて右側通行となった。1973年アフリカ大陸スーダンの首都カートゥームに滞在中、図らずも珍しい体験をした。なんとその日の真夜中、零時を期して、車の左側通行が右側通行へ変更されるというのである。その晩、市内のレストランで食事を済ませ、ホテルへ帰ろうとしたわたしは、その支配人に呼び止められ、このままホテルで休むのだったら、ミッドナイトまでバーで時間をつぶしたら、面白いものが見られると思わせぶりに誘われた。結局零時過ぎまでバーで時を過ごすことにした。ほかにも物見高い外国人観光客が、何人かバーにたむろしていた。

実は、わたしもその日の市内見学時に、交差点の信号機という信号機に、黒い布切れが被せられているのが些か気にはなっていた。

時計は‘待ちに待った’零時を回った。しばらくすると‘どすん’という鈍い音がした。バーにいた客が歓声をあげながら外へ走って行った。見ると仄暗い光の交差点にほこりが舞い上がり、乗用車が横転していた。案の定、車同士が接触事故を起こしたのだ。警戒しながら運転していたので、大事故には至らなかったようだが、耳を澄ましていると遠くの方でも似たような車同士が衝突したと思われる‘ぐしゃ’という音が聞こえた。不慣れゆえ事故は予想されるとは言え、こんな他人の事故（不幸）まで期待するとは、人間の意地悪い性（サガ）であろうか。それについても沖縄の時は、どうだっただろうか？

(近藤)